



草津中通信

令和4年 3月14日(月)
草津町立草津中学校 No.22

教育目標 心豊かで、高い知性をもつ、健康な生徒の育成

卒業式 3/11金



…いつも困らせたり、心配をかけたりしてしまいました。ごめんなさい。でも、苦しいときいちばん近くで応援してくれてありがとう。家族のみんなのおかげでここまで成長できました。これまで大変お世話になりました。そして、これからもまだまだ迷惑をかけることが多いかもしれませんが、よろしくをお願いします。

…私たち42名は、今日草津町立草津中学校を巣立ちます。かけがえのない3年間の思い出を胸に、たくさんの方々に背中を押され、今日この日から、一歩ずつ自分のちからで歩いて行きます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、草津中学校のますますの発展と、本日ご来場の皆様のご健康とご多幸を祈念して答辞とさせていただきます。

令和4年3月11日 卒業生代表 磯部慎太郎

新たに通級指導教室が

令和4年度から、草津中学校にも通級指導教室の開設が可能になりました。ただし、毎日ではなく、週に2回程度、午後に本校に設置した教室で、小学校の通級担当が本校に来ての指導となります。指導内容は国語や数学などの教科の補充学習ではなく、自立学習といって、自らの力を可能な限り発揮して、学習や生活のつまずきや困難さを減らしたり、苦手なことを自ら受け容れたりしながら、不得意な面を得意なことで補おうとする力を養う学習を中心とします。

感染症対策は自分のためではなく、大切な誰かのために

前回の草津中通信で『自分は大丈夫といった根拠のない思い込みが感染症を広めることに;正常性バイアス』という内容を紹介しました。正常性バイアスのせいで気持ちがゆるみ、感染対策がおろそかになると、ますます感染が広がり、収束が遠のいてしまいます。しかし、誰もそれを望んではいけないはずです。

今を乗り越えるには、感染症対策を「自分のため」ではなく「大事な誰かのため」と考えるのはどうでしょう。自分のための対策と思うと「多分大丈夫だろう」と正常性バイアスが働きやすくなります。しかし、他人のためだと思えば「やれることはやらなければ」と覚悟をしやすくなります。家族や友人など、大切な人の命を守るという動機づけのほうが、大きな力に結びつきます。1日10秒間でもよいので、「わが子が感染して症状が悪化しているのに入院できず困っているとしたら」と、具体的な想像をしてみると、「やはり対策をしなければ」と思う気持ちが強くわいてくることでしょう。

もし、その気持ちがわいてこなかったら? 何十秒でも、何百回でも想像を重ねてはどうでしょう。それが感染の抑止力となっていくはずですよ。



式辞

校庭の雪解けに春の到来を感じ始める頃、草津中学校から三年間の学びを終えた四十二名の生徒が巣立っていきます。今日は、待ち望んだ喜びのときであり、名残惜しい別れのときでもあります。

三年生の皆さん、卒業おめでとうございませす。

（省略）

ところで、三年生の皆さんで親を背負ったことがある人はいますか。実は、石川啄木という詩人がこんな作品を残しています。

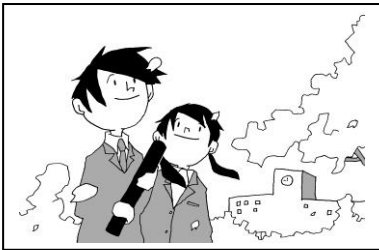
戯れに母を背負いて そのあまり

軽きに泣きて三歩歩まず

ふざけて親を背負ってみたら、ずいぶんと軽く、親の老いを感じると同時に涙が出てきて、三歩も歩けなかったというのです。毎日、親に甘えて当たり前、それが永遠に続いて当然と感じていたのに、ふと、そうではないことに啄木は気づいて泣いたのです。いつでもそばにあることで、そのありがたみを忘れてしまうものはよくあります。たとえば空気が、たとえば家族。毎日感謝はしなくても、ときどきはありがたいの気持ち伝えてみませんか。今日はそのよい機会になるでしょう。

ところで、この歌は背負われた親にしてみると、「いつの間にか我が子はこんなな体力をつけたのだろうか、そして、親のことを心配してくれるようになったのだろうか」と我が子の成長に喜びを感じているかもしれない。このように親と子、大人と子どもでは感じ方や考え方が違う場合がよくあります。そして、4月からの新しい生活は、みなさんが、その子どもから大人に向けて最も成長していく時期なのです。

中学校を卒業し、新しい世界に飛び込んでいくみなさん。たくさんの方の失敗を重ねて下さい。その数が多いほど実は成功に近づいている場合が多いのです。また、新しい出会いの中には楽しいことばかりではありません。むしろ、いやなこと、悲しいこと、悔しいことが多いかもしれません。しかし、夜も更ければ朝は必ずやってきます。心が沈み、真夜中のように気持ちが暗くなっても、あきらめず、少しずつ、少しずつ体を動かし続けましょう。気づく頃には、太陽はみなさんのすぐ隣までやってきているはずですよ。



記憶新たに3.11

昨年 11/26 に町社会福祉協議会で開催していただいた人権・福祉講演会（講師；伊東毅浩先生）
～「命の大切さ」東日本大震災から学んだこと～

人は忘れる生きものです。あのときに感じたこと、考えたこと、そして実際に被害に遭われた方々の映像を思い起こし、亡くなった方々への鎮魂を心のなかですることが、次に何かあったときへの備えにもつながります。あのとき、吾妻に避難して来た中学生も、すっかり大人になったことでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。皆様がこれまで一生懸命に子育てをされ、本校教育活動に対してご理解とご協力を下さいましたことを深く感謝申し上げます。四十二名の卒業生も四月からは新しい生活を始めますが、これまで同様にその成長を温かく見守り、支えて下さるようお願いいたします。

卒業生のみなさんが、この草津中学校での三年間の思い出を胸に、今後も夢や希望に向かって明るく大きく羽ばたいていくことを願って式辞といたします。